

DPCデータによる当院の病院指標

当院における主要な症例等の統計データについて、主要な指標をまとめました。

当該データはDPCデータを基にしています。

『DPCやDPCデータ、診療報酬とは？』

DPC制度とは、平成15年より日本独自で導入された、急性期入院医療を対象とした診療報酬の包括評価制度のことです。

DPCは、入院について医療資源を最も投入した傷病名、手術等により分類したもので「診断群分類」とも呼ばれます。

DPCデータとは、分析可能な全国統一形式の患者臨床情報と診療行為情報です。これらからは「いつ」「何を」「どれ程」行ったか、時系列で把握することができ、診療の経緯を可視化することが可能です。同じ病気に対して、他の病院や日本の平均化した診療内容との比較が容易に可能となっています。

※患者臨床情報…病名、手術等が記された簡易版カルテ

※診療行為情報…診療行為、医薬品、医療材料

実施日、回数・数量

診療科、病棟、保険証等の種類

診療報酬は、患者さんが受ける診察や検査などの医療行為等には対価として細かく値段が決められていて、保険証を提示して保険制度から支払われる料金のことです。1点は10円で、例えば初診料は282点（2820円）です。

当院は平成20年4月からDPC対象病院となりました。

平成28年4月時点、全国にDPC対象病院は1667施設あり、その中でも、当院は大学病院本院（Ⅰ群81施設）に準ずる診療機能を有する病院（Ⅱ群140施設）のひとつです。

『当院情報の公開の目的』

急性期病院での医療について、市民の皆さま、利用者・来院者の皆様方に情報公開することで当院の特徴や現在の急性期医療、地域医療について、より理解を深めていただくことを目的としています。

急性期とは「患者さんの病態が不安定な状態から、治療によりある程度安定した状態に至るまで」と定義されている期間をさします。